

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ういづ本天沼保育園
施設所在地	東京都杉並区本天沼 2-4 2-24
法人名	株式会社 WITH

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音
(音楽演劇表現)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日々の保育の中でごっこ遊びや、なりきり遊びが盛んに見られ、音楽にも関心が高い子ども達。想像力を膨らませながら様々な身体表現や音との関わりの中で表現力を培っていく。

2. 活動スケジュール

年12回 (5月、6月、7月2回、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

自由な発想と表現が出来るように、保育室内は広くする。

準備物：音源（楽器・音楽プレーヤーなど）、絵本、スカーフ、パラバルーンなどイメージが膨らむような小道具。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

講師や保育者から発する音や言葉をもとにイメージを共有しながら子ども達の自由な身体表現を引き出していく。子ども達からも提案や発想を取り入れながら様々な表現の探究活動を行う。時にはピアノ・バイオリン・打楽器などの楽器に触れたり、生の音や音楽に刺激を受けた上での表現活動も行う。記録は写真で記録する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

最初は自由に表現することに戸惑ったり、恥ずかしがる子どもも見られたが、様々な楽器や声などの音をたくさん聞き、イメージを膨らませることで自然と体が動いたりそれぞれの子どもの個性が發揮された身体表現遊びや、なりきり遊びが生まれていた。保育者が音楽や効果音を取り入れながら絵本を読み、子どもたちの想像力を刺激していくことで、絵本のキャラクターになり切った劇遊びも即興で行われている。

楽器遊びにおいても「らーめん」「たべすぎ」などのリズムを言葉に置き換えることで子どもたちにわかりやすくアプローチをしていった。

子どもたちは毎回活動を楽しみにしており、回を重ねるごとに表現力やリズム感が豊かになっていく様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

音楽や音によって自然と体が動いたり「〇〇みたいな音だね！」と子どもたちなりのとらえ方をしているのが面白く、発見でもあった。目に見えない「音」という物を敏感に感じ取れる子どもとそうでない子どももいる中では、音を可視化したりしてわかりやすくする工夫が必要だった。様々な楽器やその演奏家の奏でる音や音楽に触れる体験を通して子どもたちの感受性や表現力を引き出せたと強く感じる。この経験を生かして音楽劇表現を今後も保育に取り入れていきたい。